

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092500119		
法人名	株式会社 下里福祉		
事業所名	グループホームつつじ園	【ユニット名:】Bユニット	
所在地	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町下里770番地		
自己評価作成日	平成25年3月5日	評価結果市町村受理日	平成25年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成25年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>開設一年目であり、自立度の高い入居者が多く職員と共にゆったり過ごすことや、行事に参加することができるため意欲の高いムードメーカー的な利用者の力を借り、家事や日常生活に皆でともに参加できるよう、職員は雰囲気づくりに努める。また、ユーモアを持ち、大きな笑い声が聞こえる時が多い。看護師が三名おり、毎日の体調管理や、かかりつけ医、家族との連携に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな新興住宅街に位置しており、地域の一員として周囲に受け入れられている。平屋の建物内は、広く、明るく、グループホーム2ユニットにデイサービスが併設されている。一人ひとりが生き活きと、できることを行い、その人らしく、尊厳をもって暮らしていける場所の提供できることを目標に、開設後1年間試行錯誤しながらも、入居者のより良い暮らしを支えるグループホームづくりに前向きに取り組んできた。開放的な雰囲気、訪問の家族も自然に溶け込み、アットホームな雰囲気の中で和やかに暮らす入居者の様子がみられる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一度の会議で理念に基づく実践につながるようはなしあう。理解の薄い職員がいる。	理念に明文化されている「生き活きと」「尊厳を持って」の言葉を大切に共有できるよう、日々のケアの中で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや地域の運動会へ参加する、地元の診療所への受診を通じて顔見知りと出会う機会を持つ。	町内会にも加入し、地域の一員として、自然な形で周囲に受けられている。近所の子供達が遊びにやってくる事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	祭りや地域の運動会へ参加する、地元の診療所への受診を通じて顔見知りと出会う機会を持つなかで、認知症を持ちながら、支援を受けることで穏やかに、笑顔で過ごす様子を見せよう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、事実をありのまま伝え、忌憚ない助言をいただくようにしている。	災害をテーマに取り上げて消防署の職員も参加して開催された会議では、地域の人や町の担当者と打ち解けた雰囲気の中で話し合うことができた。	今後、開催を重ねる中で、より一層、サービスの向上に活用していける会議となるよう工夫していくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者が直接行う。	町の担当課と地域包括支援センターの職員は運営推進会議のメンバーでもあり、日常的に行き来があり、協力が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員をつくり、月一度の全体会議で話し合い、直接的な身体拘束はもちろん、言葉や態度による行動制限を行っていないか振り返りを行っている。、玄関その他の unnecessary 施錠を行っていない。	出入り口に施錠はなく、出て行こうとする入居者の気持ちに寄り添い、一緒について行き、見守るようにしている。職員を対象に身体拘束についてのアンケートを取り、話し合いをして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力はもちろん、言葉や態度、入居者がみじめと感じることがないように話し合いを持っている。		

【事業所名】グループホームつつじ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習の機会、話し合いを持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、わかりやすい説明を心掛ける。改定の際は、同意書を取り、変更点の説明を家族に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	具体的な機会を設けていない。	開放的で、気軽に訪問しやすい雰囲気である。遠方の家族が訪問して、みんなと一緒に食事をし、本人と居室に泊まることもあり、アットホームな中、何でも言える関係作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は職員と話す機会を持ち、職員の意見を参考にし、話し合いのうえ決定する。	月に1回の全体会、朝・夕の申し送り等の中で、職員の意見を聞くようにしている。管理者は職員が話しやすい環境を作り、「やってみよう」の言葉を大切にして職員の意見を実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を増やす努力が必要である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会が持てていない。		

【事業所名】グループホームつつじ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	共に過ごす時間を持つことや、家族とのコミュニケーションにより、本人の思いの把握に努めているが、職員の技量に左右されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接のときから、家族が要望をイメージしやすいように、具体例を出すなどして思いを理解できるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	持てる力が発揮できるように、ムードメーカーの利用者の力を借りて、自然に生活に参加できるようにしている。意欲の継続のため、ねぎらいの声掛けを必ず行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を相談し、共に考えるよう努めるがさらに、報告相談の機会を作る努力が必要である		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人対応できていない。	裁縫・料理・家庭菜園等入居者の今までしてきたことを、継続していけるよう取り組んでいるが、入居者皆でする事が多い。個別には、家族の協力で関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが理解できるよう、利用者の発言を他者に繰り返すなどし、コミュニケーションへの支援を行う。		

【事業所名】グループホームつつじ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在該当者がいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の傾聴が不十分で聞き流してしまい、本当の思いに気付いていない部分がある。希望について(できない)と職員が決めている場合がある。	入居者に向き合い、言葉や、表情から本人の気持ちを汲み取るよう努力しているが、その人の思いに添ったケアの実現に向けて、十分にいかされていないところがある。	その人の思いに添ったケアに繋げていけるように、入居者から得られた情報は記録して職員間での共有を図ることが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴について理解する努力が全体的に不足している。さらに理解を深めることの必要性を感じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを個人に合わせる努力を行う。表情や行動の変化を共有し、現状把握を行うが、見過ごしていることがある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の申し送り時間を30分から40分程度とり、全職員で情報、意見交換を行い計画に反映する。	職員の意見を聞いて作成しているが、アセスメント・計画・モニタリングの繋がりが見えにくく、個々の入居者の状況の中でのその人らしさを生かしたケアが見えにくいところがある。	課題や目標について、どの職員も共通の認識を持って取り組むために、個々の入居者らしさに添ったわかりやすい介護計画となることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録技術が未熟であり、観察や、気付きへの文章化がうまくできていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応が、思いつきの対応になり、事故や不具合が生じないよう考慮しながら努力を行う。		

【事業所名】グループホームつつじ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源把握し、協働して支援につなげる努力が必要である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所のかかりつけ医へ毎月看護師が受診支援を行い、相談、他科受診後の報告を、かぞく、かかりつけ医、職員で共有している。	かかりつけ医は個々に違い、往診してくれる医師もいる。家族による受診が難しい場合は、相談の上、近くの連携医に替わり、職員が受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきを、申し送りや随時の報告で行い、職場看護師が必要な看護や受診の支援や、指示を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場看護師が、家族や病棟受け持ち看護師とコミュニケーションを図り、話し合いを行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制をとり、家族に説明と同意を得ているが、個別の具体的な話し合いは行っていない。急変に対応できるように本人・家族と早い段階で話し合う必要がある。	看とりの経験はまだ無いが、同意書、看とり指針が用意されており、事前に家族と話し合う方針である。他機関との訪問看護の医療連携がとれており、施設内にも看護師資格を持つ者が3名おり、重度化に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員の救急救命対応ができていない。看護師が3名おり、すぐに連絡がつくようにし対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行う。運営推進会議で地震の対策について話し合いを行った。地域とのコミュニケーションを行い、協力や理解を求めてゆく努力が必要である。	第運営推進会議で地震等の、避難経路について話し合った。消防署の協力で日中の火災を想定した消防訓練を行った。	災害には地域の協力が欠かせない。今後起こると言われている地震・津波等に備え、地域の人と共に減災を図っていくことを期待する。

【事業所名】グループホームつつじ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助では周囲に人がいなくても必ずドアを閉める。断りを入れ、訪室するなどの基本徹底を行い、言葉かけでは、職員自身が振り返り、他者に適切かどうか確認することもある。不適切な言動があった場合、責任者に報告し指導している。	本人のプライバシーを守り、本人に合わせながら、個々の呼び方にも気を付け、一人ひとりを尊重した声掛けを行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように働きかける努力を行うが、職員の支援技術や認知症への理解への努力も重ねる必要がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿えるよう努力していきたい。現時点では十分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の身だしなみの支援に加え、男性は眉を整える女性にはスキンケア、メイクをするなどの機会を持っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の力に応じ、調理、必要な食器の数を聞く、盛り付けを皆で行う、配膳、片づけなどを、意欲の高い利用者にもムードメーカーとなってもらい、全体で行っている。準備から行うことで食事量、雰囲気共に良好である。	入居者が協力して準備を行い、自発的に料理作りを手伝っている。特に、郷土料理「さんま寿司」作りでは、得意とする入居者が多く、会話も弾み、盛り上がり作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや状態に応じ行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行えている。		

【事業所名】グループホームつつじ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別のパターンや、疾患を踏まえ、かかりつけ医に相談することを含め、おむつの選択や必要性の是非を話し合い、自立支援を行う。	排泄は自立している入居者が多い。必要に応じて布パンツ、リハビリパンツ、パットを利用しながら、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量や排せつパターンや、生活様式を考慮し、個別に対応を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯の決めていないが、入浴を楽しめる、気持ちの良いものととらえられる工夫が必要である。	介助の必要な入居者が多いユニットでは時間と曜日を決めて週2回程度入れるよう支援している。ホームのお風呂を嫌がる場合は本人に合わせて柔軟に支援し、家族の協力で自宅の風呂に入る人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン類の清潔や季節に応じた寝具、温度湿度、照明の調節を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により管理されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をもっと把握することで楽しみや気分転換の支援向上につなげる必要がある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族や地域の人と協力しながらえかけられるよう支援できていない。戸外に出る支援には努めている。散歩、ドライブ、足湯、買い物等日常的に行う。	ドライブに出かける機会を設け、回転寿司等に出かけている。全員で温泉旅行に出かけたこともあり、その後入居者の状況に安定がみられ、今もその時のことが楽しく話されている。	

【事業所名】グループホームつつじ園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さを学ぶ必要があり、週一回のパンの移動販売の際も、買い物に行く際も本人の直接支払いは行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日電話する必要がある入居者家族には携帯電話を持つことを家族と相談を行う。手紙等は、すぐに車で本人とポストに出しに行く。など行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新年の書初めを展示する、花を飾るなどする。清掃、換気や温度湿度に配慮している。	建物内は採光に優れ、リビングにはコタツやソファが配置され入居者の寛ぎの場となっている。廊下は広く、壁には行事の写真が多数展示されている。随所に季節の花が飾られている。	住まいの場にふさわしい装飾を施し、個々の入居者が気分に合わせてよりいっそう自由に、居心地良く過ごせる共用スペースとなることが望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースや家具に限りがあるため、家具の配置や、声掛け、気の合う者同士を食事時に座らせる、仲の悪い者同士の視線を遮る配置などの努力を行う。新年の書初めを展示する、花を飾るなどする。清掃、換気や温度湿度に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と共同や話し合いを深め、更に努力する余地がある。	仏壇や観葉植物等入居者の馴染みの持ち物が置かれてあり、それぞれに落ちついた雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が話し合い、洗濯干し場まで砂利道だが見守りや注意喚起の声掛けをし、洗濯ものを共に運び手伝ってもらうなど、事故予防だけにとらわれず、できることは行ってもらう。入れ歯洗浄剤などなじみの薄い誤食の可能性のある等は管理。		